

3.8 急性出血性結膜炎

(1) 定義

エンテロウイルス 70 型及びコクサッキーウイルス A 24 変異型の感染によって起こる急性結膜炎である。

(2) 臨床的特徴

潜伏期は 1 日で強い眼の痛み、異物感で始まり、結膜の充血、特に結膜下出血を伴うことが多い。眼瞼の腫脹、眼脂、結膜浮腫、角膜表層のび慢性混濁などがみられ眼痛、異物感がある。約 1 週間続いて治癒することが多いが、この疾患に罹患したのち 6～12 か月後に四肢の運動麻痺を来すことがある。

(3) 届出基準

ア 患者（確定例）

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2) の臨床的特徴を有する者を診察した結果、症状や所見から急性出血性結膜炎が疑われ、かつ、(4) により、急性出血性結膜炎患者と診断した場合には、法第 14 条第 2 項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

イ 感染症死亡者の死体

指定届出機関の管理者は、当該指定届出機関の医師が、(2) の臨床的特徴を有する死体を検案した結果、症状や所見から、急性出血性結膜炎が疑われ、かつ、(4) により、急性出血性結膜炎により死亡したと判断した場合には、法第 14 条第 2 項の規定による届出を週単位で、翌週の月曜日に届け出なければならない。

(4) 届出のために必要な臨床症状（下記のうち 2 つ以上）

ア	急性濾胞性結膜炎
イ	眼脂、眼痛、異物感などを伴う眼瞼腫脹
ウ	結膜下出血